

2022 年度第 4 回執行理事会議事録

日程：2022 年 11 月 12 日（土）13:00-18:30【WEB 会議】

出席：岡田 誠，杉田律子，星 博幸，中澤 努，緒方信一，内尾（保坂）優子，内野隆之，加藤猛士，狩野彰宏，亀高正男，小宮 剛，坂口有人，高嶋礼詩（16:30 より出席予定），辻森 樹，矢部 淳，山口飛鳥

監事：山本正司，岩部良子

欠席：尾上哲治，松田達生，

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し，執行理事 16 名の出席

*前回 22-3 議事録案は，本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

- ・ 経済産業省資源エネルギー庁より，総合資源エネルギー調査会臨時委員の推薦依頼があり，会員 1 名を推薦した。

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等>

- ・ 石油技術協会令和 4 年度秋季講演会（11 月 1 日に東京大学 小柴ホール；地質学会協賛）の協賛御礼と終了報告があった。参加者 150 名。
- ・ 第 5 回水環境シンポジウム（地質学会後援）終了報告があった。

<会員>

1. 今月の入会者（正会員 2 名）

藤代（安部）祥子，深見洋仁

2. 今月の退会者（無し）

3. 今月の逝去者（3 名）

名誉会員（1 名）

秋山雅彦（逝去日：2022 年 11 月 2 日）

正会員（2 名）

阪口和之（逝去日：2022 年 8 月 7 日），佐藤光男（逝去日：2022 年 10 月 25 日）

4. 2022 年 10 月末会員数

賛助：27，名誉：39，正会員：3241 [内訳 正：3119，院割：115，学部割：7 合計 3307（昨年比-57）]

<会計>

特になし

<その他>

- ・ 「学生会員」申請受付開始 (11/30 締切). 申請方法も簡素化されたので, 次年度会費請求前までの申請を周知したい.
- ・ 新しい会員システムを次年度に導入する旨ニュース誌に掲載し, 会員に周知する.

5. 広報部会 (内尾・松田)

1) 広報委員会 (内尾)

- ・ 第 14 回惑星地球フォトコンテスト募集開始した (2023 年 1 月 31 日 (火) 17 時締切). 前回との変更点: 応募方法の画像データについて, 1 作品あたりのファイルサイズ: 5MB 以内 → 20MB 以内

4. 学術研究部会 (辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会 (高嶋・山口)

2024山形大会

- ・ 巡検のコース案が出そろい, 審議中.

ショートコース

- ・ 第 6 回 (22/12/18 開催予定) について, 参加申込受付を開始し, 学会 HP, ニュース誌等広報を開始した (申込締切 12/8). ニュース誌 11 月号掲載予定.
- ・ 日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESC) に後援依頼を行い, 承諾頂いた.

2) 専門部会連絡委員会 (尾上)

特になし

3) 国際交流委員会 (辻森)

特になし

4) 地質標準化委員会 (内野)

特になし

5. 編集出版部会 (狩野・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会 (小宮)

(1) 編集状況報告 (2022 年 11 月 11 日現在)

- ・ 2022 年投稿論文: 64 [内訳] 論説 32 (和文 29, 英文 3), 総説 7 (和文 7), ノート 4 (和文 4), レター 8 (和文 6, 英 2), 報告 3 (和文 2, 英文 1), フォト 1 (和文 1), 巡検案内書 9
査読中: 21, 受理済み: 11
- ・ 128 巻: 公開済み 24, 入稿・校正中 22

(2) 特集号の冊子体作成について (→審議事項へ)

(3) 地質学雑誌投稿編集出版規則の一部改訂について (→審議事項へ)

(3) 完全電子化後まもなく 1 年経過する. 投稿数や発行状況への影響や変化など, 今後レビューする予定.

2) アイランドアーク編集委員会 (狩野)

(1) 編集状況報告【報告資料 01】

現在 (vol. 31) の出版状況は, 25 編, 投稿中が 50 編超. IF が 0.989 と予想し実際は 2.7 実績からは低下する見込み.

編集集中の特集号3件のうち2つはほぼ査読完了。

(2) その他

2022年公開済み論文が、Web of Science, Google Scholar等に収録されていないことがわかった。発行誌の号(No.)の完結後にデータベースへの収録が行われるが、IARは1号/年の出版形態をとっているため、年明けまで1年分が収録されない。他誌の状況も調べて、発行形態の変更(年2号発行など)なども含めて早急に対応したい。また、受理、公開された論文がすぐに収録されるよう出ワイリーへの要望も行う。

3) 企画出版委員会(松田)

特になし

6. 社会貢献部会(坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会(坂口)

特になし

2) 地質技術者教育委員会(坂口)

- ・ 「地質系若者のためのキャリアビジョン誌2022」の刊行計画について、掲載原稿募集中申込み締切(原稿提出:12月8日)
- ・ 10/27地質技術者教育委員会開催:業界説明会について総括した。過去最大の盛況で9万円の利益。JABEE校が増える見込み。地質系就職状況アンケートは集計中。

3) 生涯教育委員会(矢部)

特になし

4) 地震火山地質こどもサマースクール(星)

- ・ 11/20(日)に3学会連合企画委員会を予定。2022年度浅間開催報告、2023年度サマースク(平塚で開催予定)の準備進捗状況、2025年度開催地公募などについて議論する予定。

5) 地質の日(矢部)

特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会(中澤)

特になし

2) 若手育成事業検討WG(内野)

- ・ 研究奨励金選考委員案を次回理事会に提案予定:(委員長)内野隆之,(委員)星 博幸,中澤 努,亀高 正男,磯崎行雄,宮下由香里

3) 表彰制度検討WG(中澤)

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会(矢部)

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会(坂口)

特になし

3) 支部長連絡会議(杉田,中澤代理)

特になし

4) 地質災害委員会 (松田)

特になし

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

- ・ 2023 年度名誉会員推薦委員会委員の選定について：階層別委員について 4 名を選定し内諾を得た。理事会選出委員についても検討を進める。

6) 各賞選考委員会 (中澤)

2023 年度各賞候補者募集中。学会 HP, ニュース誌で周知している。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (辻森)

- ・ 第 20 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム (10/8, 於 東京大学) 資料集に委員会活動報告 (地質学会におけるダイバーシティ推進の取組) を掲載した。本連絡会については、地質学会は、現在オブザーバー資格での参加。JPGU は会員となっている。

8) 連携事業委員会 (中澤)

特になし

9) 法務委員会 (中澤)

特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)

- ・ 代表者および一部委員の交代；新委員長 大和田正明 (山口大), 委員会委員も一部変更あり。任期はいずれも 2022 年 9 月-2025 年 9 月, 次回理事会で報告・承認予定。

2) 法地質学研究委員会 (委員長 川村紀子；杉田)

特になし

10. その他

特になし

審議事項

1. 学部学生・大学院生向けオンライン交流会について (若手有志会；代理 星)

前回からの継続審議。若手有志から再提出された企画書修正版の内容について確認を行った。趣旨は、学生が学術大会時の企業説明会では聞きにくい情報を若手就職者から聞くこと。今回は地質系企業に所属する若手社員に講演を依頼予定。学会は、若手有志が内諾を得た講演者に対して必要に応じて講師依頼等必要な事務手続きをとる。なお、この交流会が単発イベントか、それとも定期的に行うことを想定しているかも含め、12 月理事会で院生理事がより説明をいただき、審議する。

2. 若手会員による巡検・研究集会の企画提案および理事会への協力依頼 (若手有志会；代理 星)

早稲田大会時の若手対象アンケート調査で巡検開催が多く希望された。それを受けて若手有志会が若手を対象とした巡検と研究集会が企画された。目的は、若手会員の人的・学術的交流を深めること。第 1 回は洞爺湖有珠山ジオパーク地域内を予定。学会からの財政支援 (借上バス・研修室利用などの費用支出) を要望している。今後の学会活動の中心となる若手を応援する意義はあるため、学会として協力する基本方針を確

認した。ただし、巡検の学術的要素をより具体化、強化することも含め、企画内容の再検討を求める。財政支援の内容・方法についても要検討。

学会としては、次年度以降に若手活動サポート予算（仮称）を計上して若手支援を強化したいと考えている。若手有志会は現在非公式なグループであるため、学会予算を執行し継続的に活動できるような組織化（部会、小委員会など）を支援していく。これについて早急に検討を進める。

3. ポスター賞廃止・学生優秀発表賞新設について（山口）

前回からの継続審議。賞の審査の公平性を担保するため、評価者（審査員）の範囲や数の確保について前回執行理事会内で指摘があり、評価者、評価方法について改善案が提示された。行事委員・LOC・セッションコンピナー・理事・代議員（学生会員以外）から事前に学術大会発表の中から評価可能な発表を挙げていただき、評価者を募る。評価者数が少ない発表については、各賞選考委員・行事委員・セッションコンピナーの推薦のもと各賞選考委員長が全会員の中から評価者を指名する。賞は口頭・ポスターに分けず統一して表彰する。受賞数の目安はエントリー数の2～3割を想定。「学生優秀発表賞」の名称に従い、受賞対象は、「学生会員のうち、現在学籍を有する人」とする。研究生は対象としない。以上の内容について、12月理事会で審議する。

4. 第3回 JABEE シンポジウムの開催について（地質技術者委員会：坂口）

標記シンポジウム開催（2023年3月5日予定）が提案され、承認された。内容は、地質技術者の大学—企業の接続教育についてユニークな取組み例をもとに今後の教育を考える。

5. 地質技術者教育委員会の委員の追加

委員の追加（阿部祥子会員）申請について承認され、理事会へ上程することとした。

5. 地質学会による大学支援（地質技術者委員会：坂口）

地質系大学と地質学会との関係を深化させることを目的に、学会が全国の地質系大学の声を集め、課題を整理し、各方面に調整し、必要ならば声をあげ、適切な支援を行っていく。また地質学会の活動が大学にとってメリットが大きいことをよりアピールしていく。これにより、最終的には、会員の増加、学生の大会発表の増加につながる。具体的には、以下のようなものが考えられる。

- ・ キャリアビジョン誌や地質系業界説明会などの学会企画に対して、大学から後援を頂く。大学側のキャリア教育を学会として協働、支援することになる。
- ・ 各大学での「野外実習」科目に対して学会が「フィールドマスター」を付与する制度を構築する。
- ・ 大学教育支援連絡会（仮称）を学会内に設置し、学会と大学地質学教育関係者とのパイプ役となる活動を行う。

本件の趣旨、基本方針について承認された。具体的支援内容については、今後建設的に議論を深めていくこととした。

6. 地質学雑誌特集号の冊子体作成について（小宮）

現在進行中の特集号については、電子化後の移行期ということを考慮して、世話人からの希望も確認した上

で、冊子体作成の対応を検討する。具体的には、一定期間に事前に注文を受け、オンデマンド印刷する。価格設定については注文数の予測が必要となるので慎重に設定したい。今後企画される特集号については、費用面、作業面の負担も小さくないことから、冊子体は作成しないことを明確化する。

7. 地質学雑誌投稿編集出版規則の一部改訂について（小宮）

主な変更内容は以下の通り。

- ① 現規則では、故人を著者に加えることができない。そのため改正では、必要な記載を行い、故人が担当した部分については責任著者が説明責任を負うことにより、認める。
- ② 論文受付年月日は、電子投稿・査読システムに投稿された日ではなく、実際に編集委員会が編集作業を開始した日付とする。
- ③ 編集委員会が、査読の可否を判断し、Editor reject ができることを明確化する。
- ④ 「受理後直ちに出版される」という一文は、実情に合わせて、「校正を終えた原稿はすみやかに公開される」という記述に変更。
- ⑤ 冊子体は作成しないことを明記する。
- ⑥ 著者貢献では、本規則 A. 投稿原稿 1 項の要件の内容に限ることを明記する。ただし、これに関しては、規則文面には含めず、他の場所（例：手引きなど）で著者に注意喚起する。
- ⑦ 不受理についての会長への申し立てができる条文は上位規程と重複するため廃止する。

理事会提案までに一部確認、また文言の微修正を行うことで承認された。

8. 学術戦略ワーキンググループ（仮称）の設置について（中澤）

学術会議より、第 26-27 期学術会議会員・連携会員の選考対象者に関する情報提供の依頼があり、この機会に、地質学会としての学術戦略を議論する WG の立ち上げが提案された。今回の依頼だけでなく、柔軟に学術に関わる話題を議論していく。WG 立ち上げについて承認され、今後学術研究部会を中心にメンバーの選出や具体的な議論を進めて行く。できるだけ早めに発足させたい。

9. ジオルジュ一部記事のメジャーサイト公開について（内尾）

より多くの一般読者に地質学のおもしろさを知ってもらうため、ジオルジュ掲載記事の一部を外部のメジャーwebサイトに公開したい（掲載費用発生の可能性もあり）。記事執筆者だけでなく、学会名も合わせてのクレジットになれば学会の宣伝効果も高いと考えられる。費用面も含めて対象サイトへの交渉を始めることについて承認した。ただし、サイト掲載による追加支出に対しては反対意見もあり、創刊からこれまでのジオルジュ発行に関わる収支も総括した上で、交渉後にあらためて議論することとした。

10. 12 月理事会審議事項の確認

- ① 2022 年度事業実績概要（案）
- ② 2023 年度事業計画骨子（案）
- ③ 2023 年度総会の日程
- ④ 地質学雑誌投稿編集出版規則の変更
- ⑤ 2023 年度名誉会員推薦委員会委員の選出について

- ⑥ 各種委員会の委員追加，交代等の承認（地質技術者委員会，南極地質研究委員会）
- ⑦ 研究奨励金制度及び規則案の提案
- ⑧ 学部学生・大学院生向けオンライン交流会及び巡検・研究集会の企画提案
- ⑨ 学生優秀発表賞の新設について
- ⑩ その他

監事コメント

（岩部監事）

今後検討を深めて，将来を担う若手会員が巡検も含めて，学会活動に対して，企画，運営しやすい，参加しやすい環境づくりを進めてもらいたい。

（山本監事）

将来の学会のためにも若手育成に関わる事業の予算化，ルール作りは必要と考える。若手が第一線の研究者と触れる機会は貴重な機会である。ぜひこの経験を今の若手にも体験していただきたいと感じている。

以上

2022年12月11日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努